

19m05

教育方法論m

小テスト



班別討議



教材づくりの発想



全体発表

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第5回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教材づくりの発想)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・上からの道は「教科内容の教材化」、下からの道は「素材の教材化」
 - ・教材は子どもたちの興味を引く、地域との整合性などが重なる
 - ・自主教材の作成が今までの教材に飽き足らない教師の存在
- 証明

■肯定的web (学習指導要領解説)

まとめ ()

- ・ネットワークを用いた視覚・教育機器の活用が可能
- ・復習や見直しを立えることが可能な学習活動の工夫
- ・統計資料を用いては機器操作以外に教材・器具の研究

■否定的web (教育つづれ日記)

まとめ ()

- ・生徒の意見や発想を元に課題づくりをする
- ・観察や実験をする
- ・生徒に考えてもらうことも教材の一つ

■班としての要約

まとめ ()

- ・興味を引く教材づくりからスタート
- ・ICTやメディアを利用し、研究
- ・生徒の意見や発想をふまえないと教科書と同じ

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・教材化	・教科内容	・素材	・興味
・子ども	・地域	・整合性	・教師
・ICT	・見直し	・意見	・発想
・	・	・	・
・	・	・	・

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 5 回

各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教材づくりの発想)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (授業をもっと楽しく魅力的に)

- ・ 子どもの興味、関心、意欲を刺激
- ・ 「教科書」を教えるで子どもの「学びからの逃走」がみられた。〈上からの道〉
- ・ 子どもになじみやすい教材を。〈下からの道〉
→ 教科書の中で利用

■肯定的 web ()

まとめ (実体に合わせて教育を行うため。)

- ・ 教科書の補充として、学習者の実態に合わせて
- ・ 教える教材をつくる必要がある。
- ・ 生活から切り離された学びとなる可能性が下がる。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■否定的 web ()

まとめ (教科書から逸れる可能性)

- ・ 教科書に頼りすぎてしまう
- ・ オリジナルの教材を持ち込み授業を行うのは難しい

■班としての要約

まとめ (生徒が理解するために自主教材は必要。)

- ・ 教材は伝えたい意図を十分に理解する必要がある。
- ・ 段階を踏んでおしえるものもある。
- ・ なじみのある教材を活用することで子どもに理解してもらう必要がある。

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・ 上からの道 ・ 下からの道 ・ 具体例から
- ・ 教科書を教える ・ 教科書を教える ・ 常に発想を
- ・ 学びからの逃走 ・ 教材理解
- ・ 身近なこと ・ オリジナル教材
- ・ 概念 ・ 導入をわかりやすく

メディアとしての教材



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (メディアとしての教材)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (教科書というメディアをどのように活用するか)

- 教科書中心の理解型学習は受動的で退屈になり
- かたはらの教科書をただ読むだけでなく様々な学びの体験をさせる必要がある。
- 学びの体験の方法の1つにメディア・リテラシーの素材として教科書を活用する方法がある。
- 比べ読みはメディア・リテラシーとしてテキストの批評を促すための手段として有効である。
- メディア教育はステレオタイプ化された見方考え方をとって批判的思考を促したりするということがある。

■肯定的 web ()

まとめ ()

- メディア教育における3つの視点にはメディアの本質を理解する、メディアの利用を実践する、メディアの情報性を知覚する。
- メディアの本質を理解するにはメディア論、デジタル環境論などを理解する必要がある。
- メディアの利用には、メディアの利用法、メディア教育の方法、メディア教育の教材開発(=)
- メディアの情報にはメディアの情報論、メディア・リテラシー、情報社会への参画(=)

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■否定的 web ()

まとめ ()

- .
- .
- .

■班としての要約

まとめ ()

- 教科書と比較するためにしなければならぬ準備が
- 大変だを感じた。
- そのかわりにたいへん授業がおもしろく、興味が
- わきやすく、授業の内容が濃いものになると感じた。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
メディア	教材	教科書	理解型学習
受動的	退屈	メディア・リテラシー	批判的思考
準備	比べ読み	おもしろい	興味
メディア教育	.	.	.

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (Xメディアとしての教材)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ

- ・ Xメディアリテラシーの教材として教科書を用いる
- ・ 教科書を複数用いて文脈の違いを考察する
- ・ 比較に違いがあれば考察して何が違うかを考察
- ・ そこから生じる文脈効果について理解を深める
- ・ 批評・批判するだけでなく

■肯定的 web (色んなサイト)

まとめ (Xメディアとうまく使うことが子どもたちに良い影響を及ぼす)

- ・ 学習者負担の軽減とICT活用能力を高めるために学校教育を情報化する
- ・ 教材は学習者の認識を変えるものになる

■否定的 web ()

- まとめ (Xメディアは必ずしも中絶してはいない)
- ・ 日本では他人の意見を否定するのはなく尊重することが必要視されている
- ・ 外国では批判的思考が重視されている

■班としての要約

まとめ (色んなXメディアを吟味して本が有用なものがある)

- ・
- ・
- ・

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・ Xメディア
- ・ 教材
- ・ Xメディアリテラシー
- ・ 文脈効果
- ・ 比較
- ・ Xメディア教育
- ・ 教科書
- ・ テキスト
- ・ 外国の違い
- ・ ステレオタイプ化
- ・ 文字

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

教材概念の拡張・電子黒板



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 5 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教材概念の拡張)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (子どもたちの協同的・対話的な)

- ・ 学び合いを志向する
- ・ 重要なのは 子どもたちの発言・文章
- ・ 話し合いや討論が展開していく
- ・ ICT教材での保存した画面をいつでも取り出せる
→ 子どもの関心や理解を高める
- ・ 一斉学習からグループ学習へという学習形態の転換

■肯定的 web (電子考察を使った授業における 発問の在り方に関する考察)

- まとめ (
- ・ 意見交換のためのメディアとして活用できる
 - ・ 資料・作品を提示しやすい
 - ・ → 理解しづらい事柄を理解しやすい

■否定的 web (肯定的 Webと同じ)

まとめ (

- ・ 電子黒板より黒板を使う授業のスピードと
- ・ テンポがゆったりとしている
→ 生徒の理解度を深める
- ・ 電子黒板だと提示できる情報がいっぱい
→ 過多となる

■班としての要約

まとめ (電子黒板と黒板の併用が一番良い)

- ・ 電子黒板、黒板どちらかに偏るとデメリットが
- ・ 増える
- ・ 子どもたち主体の授業を目指すべき
→ そのための電子黒板といつて ICT教材

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- | | | | |
|---------|--------|----------|-------|
| ・ 教材概念 | ・ 電子黒板 | ・ 協同的 | ・ 対話的 |
| ・ 子どもたち | ・ 学び合い | ・ 志向 | ・ 発言 |
| ・ 文章 | ・ 話し合い | ・ 討論 | ・ 理解 |
| ・ 関心 | ・ 一斉学習 | ・ グループ学習 | |

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■

な か

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教材概念の拡張)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ 学習教材への変換
- ・ 「話しテキスト」「文字テキスト」
- ・ 一斉授業から グループ学習へ

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・ 保存できる
- ・ 欠席者に配布しやすい
- ・ 動画等の資料もあまり使わない
- ・ メディアと関係できる
- ・ 授業の効率化

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・ コストがかかる
- ・ 通信エラーが起きると授業できない
- ・ 教師への負担が大きい
- ・ にくい

■班としての要約

まとめ ()

- ・ 教師への負担が大きくなるのと
- ・ 電子黒板を使う学年を知らないといふ

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

教材	学習教材	話しテキスト	文字テキスト
一斉授業	知識伝達型	グループ学習	この字型
垂直的関係	水平的関係	協同的	協同型授業
教材づくり			

全体発表(ICT活用例)



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT活用)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

中学理科の実験など
地形、天体、電気系、
化学反応など。

■目標、内容・指導の概略等

実験、録画

→ 教室に映してくり返し行う。

図を動かしながら説明。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

■工夫した点、出典等

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

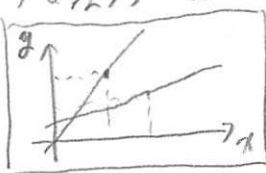
班のテーマ (ICT活用例)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

単元…数学
(空間ベクトル、比例、反比例)

■目標、内容・指導の概略等

プロジェクター or 電子黒板



アニメーションで
傾きの変化や
座標の位置を
説明

教師

生徒

人

人

人

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組み方について感じたことなどを

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

準備物…プロジェクター、パソコン1台

■工夫した点、出典等

・傾きの変化を目で知れる

・紙では分かりにくい、Z軸も表現しやすい
(空間)

・準備物もプロジェクターとパソコン1台だけで手軽

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取

全体発表(確認問題4)



教育方法論 19m 班まとめ (発表者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ

各問のポイント

■問 1

到達目標

方向目標

体験目標

■問 2

古典、数学、形式的、形式的陶冶
技能、実質陶冶、推理、他者
探究、概念

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■ フォル式陶冶と実質陶冶は

■問 3

できるだけ少ない手間で教えられる側に
知識・技能などをねらいに沿って身につける
ようにする習練によって身につけた
教える側の行為

■問 4

「ブルームの分類体系」

教育目標を「認知領域」「情意領域」
「精神運動領域」に区分し、それぞれ容易な
内容から難しい内容へと変化した

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り
組む時間や、問題内容と発表班との関係などにつ
いて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

教育方法論 19m 班まとめ (発表者が書くこと)

第 4 回

各班ワークシート (確認問題まとめ)

- 1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問1

教育目標の3つの区分

- ・到達目標
- ・方向目標
- ・体験目標

■問2

古典, 数学, 形式的, 形式陶冶
技能, 実質陶冶, 推理, 他者
探究, 概念

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■問3

向山が規定した「教育技術」,

「できるだけ少ない手間で、教えられる側に 知・技能・技術をねらいに沿って身に付くようにする習練による身に付けた教える側の行為」

■問4

授業を構成する要素

1. 教育目標・内容
2. 教材・教具
3. 授業過程・学習形態
4. 教育評価

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り